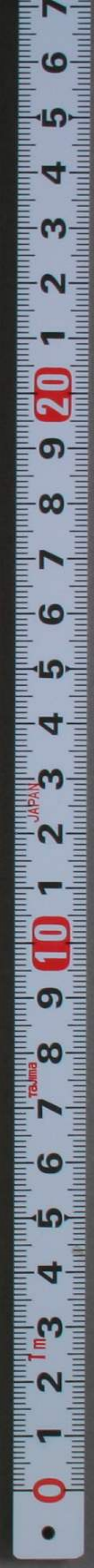


大西園府 卷二

洋学文庫
文庫8
F 2
1



從第九
至第廿四

此卷圖未成故校正亦居於後

大園府

卷之二

園府圖解卷之二

第九飯

一号

小なる廟堂

茅茨木椽等を以て葺たる屋頭ニ木の十字架を架り屋を距る丈と一二尺ふりて自然の樹幹を植て柱とあり斜座を造り堂周の歩廊とあり

堂の四面を古き石瓦を以て墁築し或は茅荻永桿を用て壁とあり古き麻ツキタテを用いる等



を其好、小従ふ也

此堂を造るも、其最好所を草木自ら繁茂遠く、
望み見るべき阜上、送造るを最好

二号

斗植草木を列置ハチウエも花榻

三号

斗植草木の榻を造る基礎を示す

此榻ハ兼て客の坐する小供也、是憩息の間、
鼻芳香を聞目好景を省せ、志めん、ハチウエ為ふ

四号

笈日の小住

木柱又古き石を用て造成、茅茨木扉を以て、
屋を葺く

五号

四号小住の造築法を説く

此住ハ二箇の大小同、租房より成る、
開放して壁なき、租屋角に造る柱を、
建川雨暘を遮り、爽涼なる大気を容る、
游客消遣して一區の田圃に到せば、穀類を

種へ馬鈴薯及野果を^{の生}殖^せるを見^る此地を
過て始て此涼房に到るや^りに造るハ尤好
き施設とす

六号

園椅

其靠背

身を倚^るる所を文彩なく且柔軟ある木に
て造るへ

七号

農家

此家を平ら^く木柱を横に積^累し^て疊子及^び古

薄

き石を疊層^して造る丸き前斜^に座を檐端の
中央を木柱^にて支へ屋を茅葺^きて葺くふ

王

八号

七号の基礎

九号

此堂ハ草拵蔭翳せる地若くは深林^{の中}に造

りて好^し

風致

小^形に^て恰も好き八角堂なり木柱及文彩
なき小円材にて造成し木稈を以て屋を葺く

土地高し
此堂を高所（小堂）に在せ遠き所より望むべし
寺と真處を得（百歩）り
恰其好位置を得（そのとま）

第十板

一号

天然の材幹を用て造る門扉

古（木）のゴ（木）子（木）セ（木）風（木）上（木）の（木）工作（木）小（木）撮（木）を

二号

支那の鳥籠

閑散して眺眺小佳なる草原を此籠樊を設

くべき好境とす

三号

食卓

四号

園榻

五号

食卓

六号

園椅

三号以下諸物の皆文彩を加へず苔藓を帯
たる木材を供へ此を結構する意不随て
樹木若くは樹枝の皮を用ゝ登り

七号

八号

簡易にして工費を省き然も風致雅あり橋本

粗糲の木橋

狭小なる水流に架する小間

第十一飯

一号

八角小堂

尋常木柱を建て壁に着色おき樹皮を縦板
に編み用し永得て葺たる屋上の花瓶を
飾る
頗る豁開せる地にて所々^{夏々}に幾種の灌木叢
生せる所在ハ此堂を造るに宜ししとす

二号

鋸截の小材にて造る^{コウリ}惣所^{カケ}至て簡易に造建す

横割甚簡易なるを東とす

此惣所を土牆或ハ板塀にて圍いたる菜園
の一角に造りて甚佳し

三号

渙家

粗糙なる樹幹を用て造り芦荻等の葉を帯た
る者を用て葺き^欲烟簫一箇を具し廣き池の
畔に草水生茂せる所ハ此家を造る好所在
とす

四号 五号 六号

鋸截木材にて造れる柵門

第十二 欽

一号

質素ホーテ清楚なる寶庫

粗朴なる木材を用て大に挺出せる斜廡を

後に廡下より二箇の懸床あり扉上の額面より

Salvia ^{サリビア} ^{イニストラチ} 帰藏せるの語を掲ぐ是

古人の往々屋楯上より扁額を掲ぐる例に倣

へるあり又ハ往昔地震小て埋没せる都府

ヘルケラ子ユム及ホムペイ ^{ニ都} 等小て掘

出せし額面の如く ^{サルビア} Salvia ^{イニストラチ} 須淹留ふの

語を題するも可なり四壁ハ鋸断せる木材
の輪片を用て掩ふべし

二号

一号の結構を示し基礎

七号

支那小艇

三号

小木材の柵門

典屋の前面の景ハ其上の分圖

を視て知るべし

四号

鋸截木材にて造れる柵門

五号

鋸截木材にて造れる小庫

六号

圓形廟

石にて造る或ハ木を彩色し其沙粉を施して石を畳ふて建築
せし如く模造す此廟ハ楯上に親友の交際席信ありハ福を
致すの光と云意を ^藤 藤 ^也 題辭を掲げて友心を表する為に設く

一号

圓柱廟

園主遊客を携へて多時迂迴せる並木の道
を過ぎ邊に廣路の地小列り此巍然なる廟
宇前に瓦立をるを見るときハよく遊客の
興味を添うべし若一名工をして其柱
を画きて真に大理石の如く擬せしむれば總
て壯嚴ふして且佳麗を加ふるに足る
或ハ平らなる蔽障に廟宇を画する物を

立て、これに代るも亦足れり此の如
き蔽障の後ハ却て貧戸様の小屋を設り
てよ

二号

一号の基礎

三号

石橋或ハ画いて石に模擬せる橋
鍵子ハ鉄或ハ綯索を用う

第十四版

一号 二号

圓形及方形の園搦

樹蔭翁鬱たる地に設るを好と次此處より
閑路ある景を眺望すべし

三号

神卓

古昔を追慕して深く尊崇する意ありて
中小就て酒神を祭るに供ふるの爲に神口赤の上に置設く故に神意を感悦せしむべき
詳

delab

四号

平らある蔽障小顔屋を畫する物

後に小園を帯ひ左右木樹を掩ふ處に置き
恰好水潭を隔て、水を観れば尤も奇抜
ある景を呈すべし

地を擇んで水れを置りて元來水れを蒲
菊山即蒲菊蔓を生植せる陽地の小阜上に
安在するも亦佳あり
故に酒神ハ蒲菊を以て
甚好たる者也
置案に西洋の酒ハ
蒲菊より醸製ス

五号 六号

鐵より造れる柵門

七号

支那様の吊橋

北橋ハ圖上に示す所の式機に擬にて甚だ容易
に鼓動せしむべし

第十五版

園圃を営置むる地基の大畧あり土地の大小
に従て更にこれを廣狭すべし

伊符高敞ある岸上の亭此亭より水上の美
景を眺臨すべし

呂符池水此池分支して種々の小渠とあり
池面より望むれば波山仁山地平上に元立し
保符の平地其間に山畝在し其前に一小艇を
浮かぶれを標として邊岸に至るを便に又
邊符に小屋ありて半の樹蔭に遷る正に其

地に届つて始^明て草芽を以て葺^ヒたる一農
家此を知る

〔土〕符の小築より眺むる多種目を怡しむる
觀あり山下に小渠を流し一ハ一列の雜樹
一ハ水面一ハ島上の尖塔綠林上に突出せ
るを觀る〔和〕符是あり

〔利〕奴符二場の圃田ふして〔生〕符山の背に
あり穀類及果菜を雜植し中央一條の行徑〔留〕
を通下^并流に山頂に達す

〔遠〕^并ハ小農家共傍に小廠を置^并け乳汁を製^造する

諸具を乾^干るに為に備ふ又農家平常用る諸
器を陳在す

〔和〕符ハ園牙

〔加〕符ハ深窓幽寂ふして粗朴あり小憩^止處
に在り讀書靜慮從て閑適の用以供す

〔奥〕符ハ支那鳥籠

〔太〕及〔礼〕ハ原野ふして喬木生長す

〔曾〕〔津〕〔祿〕及〔奈〕符ハ松柏の鬱林

第十六飯

小園園の地基の大畧

〔伊〕符ハ小築置たる最高阜

〔宮〕符ハ小築阜高伊阜に次ぐ

〔波〕符ハ小高き^{地場}履^{地場}遊谷ありれを越て遊遠

〔仁〕保松柏生長せる茅阜

〔邊〕ハ島中の一地懸處を設くべし

〔土〕ハ支那鳥樊

〔知〕ハ雜木の稚苗を植る一地區

〔利〕ハ雜花を植る一地區

〔奴〕留ハ蓄薇園

園府卷三圖解

第十七 鈚

○^謹臣儒按に下に塔の地基を掲ぐ

一 号 古くス工匠の風を用て造れる塔の陰に設け見え比る及にちせる園房。

二 号 三 号 祭天壇

四 号 五 号 園橋及び園榻天然にして雕績を加する木にて造る

六 号 支那北風に擬して造れる華麗なる

小築屋ある廊を付く臣儒按るに下の一園ハ地基を示す

第十八 鈚

一 号 園其の制かり内に入りて其所在を認め易固かぶけり志むべし

二 号 三 号 園 椅

四 号 雅潔にして四面敞開志規制園規制園なる殿堂皆斧斤を加へけり天然此材木にて造立志茅荻を以て屋を葺く此殿堂此制ハ人皆に勸てこれを作らむるも必必其意に投欲出るも疑なき

五 号 樹枝を維結し天然此樹幹を合して造立せる小屋其簷ハ禾稈或ハ茅荻を以て

葺き戸前ハ四本此天然樹幹を以て壁を支へて入口を造る

六 号 七 号 橋梁亦其六号ハ狭長なる木材鋸にて造り其七八小圓材にて營む

第十九 級

一 号 二 号 天然の材木にて造れる園椅

三 号 圓形殿堂天然樹幹十六本の柱を建つ蘆荻を以て屋を葺く此殿堂ハ *Origo Kenky*

四 号 上章三号此殿堂を築き地基 *然の地面* に經營せし *人作を施す天*

子

子

五号

簡易なる盪椅

ズラニコソコシカケ

樹幹の柱二本を建つ勾屈せる木にて造れる坐床一具此盪椅の用法二道あり一道ハ盪揺せんも欲る人好み此椅子に坐せ一道ハ上に云へる椅子に坐せし一人の外前後端に一人つゝ木端に立ち手にて索を把る是に於て其人身を前後に盪揺せハ椅も一低一昂相揺動を佛蘭西にてハ *Chaise-halls* 等の處にて此戲を設けて客を延くおと少

5

六号

柱表

かゝる其制ハ索の半截の地より網を固く繋りつけ之を床の下に廻らし客の盪揺せる間俟て地に墜落する時網にておれを受納て損傷せさくさるゝとあるに備多

7

七号

園椅

柱身に花を貫串せる線糸を絡多下体の文に其記を書き

天然粗糙の木を用多

八号

食卓

天然粗糙木にて造

九号

支那の遊舫

第二十号

一号

寶庫

古今名國の石造洞の形に擬して造

二号

支那の鳩籠

木柱の上に挿し其柱身其み地上より起

出て人目に見ゆるるに造る

三号

Gothische Ruine
ゴシック 駐風の破屋

但し屋内にハ規圖かる^ニ正室及び寶庫を設
く此造構ハ別荘内の天然の風景ある地に
建て宜しとす

四号 五号

木材にて作れる柵

六号

支那の橋

七号

美麗なる形状の石橋

此橋ハ木にて造り着采して石の如くとく見

えとむし

第二十一級

一号

古制は従ひて造り嚴尊イキりて圓形なる廟堂
此規制ハ羅馬工匠の創むるところ壁帶トウ横
木ハ巧みは省き除くを其故ハ瑣細トウの工
作を家屋の外表面は饒るものハ其雄壯の觀
を減るハあり遠方トウより望み見るところ
の工作を意は随て取捨を為し何と云れハ
瑣細の技工ハ大氣の為は障へらまて人目
よ来り映らばして目を暗クまし混亂を生そ

まきハあり

此種の廟堂ハ人の登臨を促うに為よ之を
高所は建築を為し

其諸柱を小木柱を密合して其上は色布を
糊貼し或ハ石灰或ハ他の壁泥を以て之を
塗りて好し如此く之れハ大は其費を減し
且其木材圻裂の患なく又彫績の勞を省く

二号

一号の地基の半径

三号

園房

廣大なる園圍を久しく逍遙する間又ハ小亭廟堂若くハ他の屋舎の傍屋ニ處々園房を設く應し以不潔の觀を避くる為之を變して他の形狀を得せしむるハ其規制ハゴキス見上ノの風ヲ擬し尋常有る所の縹標皮の外面を顯ハし其突兀礪研の紋理ニ依て鑿鋸ニて彫刻して種々の形ちを得せしめ木楯を以て之を連接し其後石質ヲ擬して光澤ふき中ノ顔料を施す（若し巧造り出せしむるハ近

之を望むといへども其假石たるを辨るること能はば

四号

三号の地基

五号

敗顔小壁

列樹の外端若しくハ目の觸るるところの外端の小高所ニ於て此敗顔小壁を設く其費少にして幽致多し之を水邊ニ造るも又最も好し此小壁ハ粗澁なる板を圓の如く釘固く

其門口を鋸開きて之を造就す次て丹米を
施し零餘の廢板草卉の鬚根を釘附し其後
淺褐なる相應の色を以て之を米色ハ好
顔色を生じ

六号

牡丹様巧の橋

黄色若くハ青色の石よりて造り或ハ其石は
擬して着色也

七号

詳し其造法を示したる地基

第二十二版

一号

敗寺

其内房猶存去僧阿之は住居熱を避るる
為し三本の樹幹よりて壁を距ること六尺許
の地は塼を設け茅荻の障を蓋ひ敗磚房は
は接尾其全舎ハ三面の木牆を造りし瓦
榻置其側欄干を椅を設く諸件皆本図の如く陳旧頽敗の
形状は着色也ハ

二号

一号の基礎

此造營ハ下條の設置法を用いハ人をして
遐想を生せしむカハ是れ也
主人客と此模擬セる敗寺ハ近りんと見カ
とき僮僕ハ命し先づ到りて鈴を引りしむ
其鈴索ハ窓扉の兩扇ハ設けたる扇巧の發條
ハ連たる索を引けは發條動キ兩扉一時ハ
忽ち開きて人意の表ハ出た窓中ハ義潔な
カ源泉を現に其景人目を慰悦せしむ基礎
の図を照すは其造作法自ら明なり此規制

ハ次又ハ開豁セる尺度法を用て造作スル
ク故ハ其理望遠鏡も同しく
根脚僅ハ一丈六尺許ナルとも其開大幾倍
あるを知らん
練熟セる老画工未熟の子弟の遠方より望
み觀るべき家の外面ハ畫く法を問ふ此法專々
精密を貴ひ僅々の距離にて已ハ認むべし
之ハ且謀り認易き瑣細の瀨色ハ皆之を避
けず貴ふ故ハ其畫くところの諸物ハ務めて
大ありを要し光澤ハ大ありて廣さを要し

暈ハ甚だ暗^ク人物の衣服ハ襞積^シを簡
畧^シハ^シ其^レ主^トなる^ルハ其彫刻^ノ黒
き^ト過^ルを忌^ム其^レ法^{アリ}其^レ主^ト物^ト之^ニ
陪^録セ^ルモノ^ノ大^ナル^ルハ其^レ光^彩最^モ頭^著者^ナ
方^ヲ欲^シ此^レ法^ハ最^モ眼^ト鼻^トと^シて^テ人物
を^シ生^動と^シ其^レ性^情ハ顔^面に^シ溢^ル一^シ

三号

巧造支那橋

第二十三版

此地基ハ甚だ大^ナル^ルと^モ布置極^メ
て精密^ニ景色变化多^シ

伊^呂籍^ノ草^原なり^テ松^杉及^ヒ他^ノ常^緑^ノ喬^木及^ヒ
ハ灌木^ヲ植^ル

波^仁運^遷土^知符^ハ花^木皮^ハ小^花木^ヲ植^ル地
面^也

利^奴符^ハ高^ク繁^茂して花^ヲ着^ケ濃^淡^ノ葉^色
交^ルる^ル灌木^ヲ植^ル地面

留^遠和^符ハ諸^般ノ葉^実を^シ結^ス樹^ヲ植^ル地面

加符ハ廣場あり中央ニ蔭翳多き樹を植えて
園榴三四脚を設く其周圍を遶りて柵樹を植
えたる草原あり此地より

興太禮曾符諸種の球根花を植たる壇を望むし

其花ハ即ち *Hyacinthus, narcissus, ranunculus*

bulbosus の類若し七月より花謝るまでハ下種

出の草花を盆植して並置おく也し

津符ハ水邊の小邱邊及い園榴を設くるも宜し

稗符ハ津符の邱より稍高く上ニ風致ある小

亭を建つ

寮符ハ園房

良符ハ草原の憩所

武符ハ白楊類 *populus* を植たる島嶼

宇符ハ其園の家屋の華朴を應じて略約若く

ハ精緻の橋を架せし

為岸屈曲せる水中央ニ島あり下流林中ニ終る

水崖ハ慢あるを貴小嶮ある一なり

第二十四段

大園圃大略の地基地形の廣狹を隨て之を大小
見へし

伊符ハ園亭周圍の廊下ニ回道^廊下^廊を^支ふ
ニ柱^礎基^礎を以て^て此亭ハ^洋嶋^上ニ建^つ水面
より高きこと三四尺島ハ^矮木^を植^え眺^望ニ
障^ハさ^しむ島^嶼の景色ハ^鮮雅^{なり}て^變態^也
り^り一面ハ山^ニ對^其山ハ二十尺許水面^を出^技
^みを^要そ^し圖^上ニ寫^せる一面ハ^蒲萄^を植^え
へ下^ニ曲折^せる遊^徑り^島より仰^き望^めて

波符の^一地^りり^上ニ^一亭^を置^く

區符ハ^渙家^水岸^ニり^りて半^ハ樹^下ニ^藏る^水
樹林ハ^三符^島屏^翳と^し其^島ハ^小渠^を以^て
地形^を劃^断と^區符^ハ

保符ハ^農家^教宇^及打^麦場^草堆^り

遠^上符ハ^菓木^園

知^符ハ^蜂房

利^符ハ^農家^の蔬^園

奴^留符ハ^田畝

遠^符ハ^高丘^上の^平地^田畝^の地^勢丘^ニ對^{して}

箱く高し

和符ハ林中の獵戸

加興符ハ粗井架の橋

大符ハ敗宅の遺址

